

(抄訳)

AIGは、ハートフォードから ウッドベリー・ファイナンシャル・サービスを取得

ニューヨーク、2012年7月31日—アメリカン・インターナショナル・グループ・インク（ニューヨーク証券取引所銘柄：AIG）は、本日、AIGの生命保険およびリタイアメント事業であるサンアメリカ・ファイナンシャル・グループ・インクが、ハートフォード・ファイナンシャル・サービス・グループ・インクとの間でウッドベリー・ファイナンシャル・サービス・インクを取得する旨の最終的な合意を締結したことを発表しました。ウッドベリー・ファイナンシャルは有数の独立したブローカー・ディーラーです。

取引が完了した時点で、ウッドベリー・ファイナンシャル・サービスは、米国の最大級の独立したブローカー・ディーラー・ネットワークの一つであるサンアメリカ・ファイナンシャル・グループのアドバイザー・グループの一員となります。アドバイザー・グループのネットワークには、セージ・ポイント・ファイナンシャル、ロイヤル・アライアンス・アソシエイツおよびエフエスシー・セキュリティーズ・コーポレーションにおける、4,800人を超える独立金融アドバイザーが含まれますが、ウッドベリー・ファイナンシャルの約1,400人のアドバイザーはかかるネットワークを補完するものです。パトリック・H・マッケヴォイは、アドバイザー・グループのプレジデント兼CEOであるラリー・ロスの下で、引続きウッドベリー・ファイナンシャルのプレジデント兼CEOを務めます。

サンアメリカ・ファイナンシャル・グループのプレジデント兼CEOのジェイ・ウィントロブは以下のように述べました。

「ウッドベリー・ファイナンシャル・サービスは有力なブローカー・ディーラーであり、非常に優れた独立金融アドバイザーおよび献身的な本社スタッフを有しています。私は、ウッドベリー・ファイナンシャルのアドバイザーが私達のネットワークに加われば、かかるアドバイザー達は、我々の業界有数の技術およびオープン・アーキテクチャー・プラットフォームという多大な恩恵を受けるであろうと確信しております。我々は、ウッドベリー・ファイナンシャルをAIGの一員として迎え入れ、ウッドベリー・ファイナンシャルのクライアントに対し、更に価値のあるサービスを提供するために協力していくことを楽しみにしております。」

マッケヴォイ氏は、以下のように述べました。

「我々は、アドバイザー・グループに加わり、独立金融アドバイザーにコミットしている団体の一員となるであろうことについて喜ばしく思っております。我々は、高く評価されているサービスの提供に成功してきましたが、我々は、アドバイザー・グループが提供する最先端の技術、手段、サポートおよび成長促進の機会に向けられた提携から大きな恩恵を受けると信じております。」

ロス氏は、当該取得の重要性について、以下の通り述べました。

「ウッドベリー・ファイナンシャルが我々のアドバイザー・グループ・ネットワークに加わることで、我々が独立金融アドバイザーのビジネス・モデルに確実にコミットしているといった明確なメッセージを発信することとなります。我々は、引続き、当社のアドバイザーに投資し、アドバイザーが業務を拡大し、クライアントに対し、より良いサービスを提供できるようサポートします。」

当該取引は、規制当局の認可および通常の実務完了要件を満たしていることを前提として、2012年末までに完了する予定です。ウッドベリー・ファイナンシャル・サービスは、ミネソタ州のオークデールに所在し、200名を超える本社従業員および米国各地に1,400人近くの独立代理人を有しています。ウッドベリー・ファイナンシャルの前身はモンタナ・ライフであり、その歴史は1910年までに遡ります。

#

本プレスリリースには、1995年私募証券訴訟改革法（Private Securities Litigation Reform Act of 1995）の意義の範囲内で「将来の見通しに関する記述（“forward-looking statements”）」を構成する見解、目標、予測および記述が含まれる可能性があることに留意されたい。これらの見解、目標、予測および記述は過去の事実ではなく、将来の事象に関するAIGの見解のみを表している。その多くは性質上、本質的に不確実なものでありAIGに制御可能な範疇を超えている。これらの見解、目標、予測および記述は、「考える（believe）」、「予想する（anticipate）」、「予測する（expect）」、「意図する（intend）」、「予定する（plan）」、「見なす（view）」、「目標とする（target）」、または「見積る（estimate）」等に先立つ、続く、またはこれらを含む言葉を含んでいる。これらの見解、目標、予測および記述は、特に、以下の事項についてなされる可能性がある。米国財務省のAIGにおける保有持分の処分タイミング。AIGのメイデン・レーンIIIエルエルシーにおける持分に対するキャッシュフロー予想および公正価値。AIGのインターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション（「ILFC」）における持分の現金化。サブプライム抵当、金融保証保険会社、住宅および商業不動産市場、国債および地方債の発行体、ならびにソブリン債の発行体に対するAIGのエクスポージャー。ヨーロッパの政府およびヨーロッパの金融機関に対するAIGのエクスポージャー。AIGのリスク管理戦略。従業員を保持し、また動機付けるAIGの能力。AIGによる展開可能な資本の拠出。AIGの株主資本利益率および1株当たりの利益に関する野心的な長期目標。純投資利益を増加させ、資本を効率よく管理し、費用を減少させるためのAIGの戦略。顧客の保持、拡大、商品開発、市況、財務業績および準備金に関するAIGの戦略。AIG子会社の収益およびコンバインド・レシオ。AIGの実際の業績および財務状況は、これらの見解、目標、予測や記述における業績および財務状況とは（場合によって大きく）異なる可能性がある。AIGの実際の業績が、特定の見解、目標、予想および記述における業績と（場合によっては大きく）異なる要因には、以下のものが含まれる。信用格付機関による行為。市況の変化。異常災害の発生。重要な法的手続。地方債ポートフォリオを含む、AIGの投資ポートフォリオへの集中。賠償責任保険の引受および支払準備金に関する判断。繰延税金資産の認識に関する判断。繰延保険獲得費用の回収率に関する判断。ILFCのフリートの航空機価値の復元可能性に関する判断。2012年3月31日に終了した四半期についての様式10-QによるAIGの四半期報告書のPart I, Item 2. “Management’s Discussion and Analysis of Financial Condition and Results of Operations”、2011年12月31日に終了した年度についての様式10-KによるAIGのアンニュアル・レポートのPart I, Item 1A. “Risk Factors”およびPart II, Item 7. “Management’s Discussion and Analysis of Financial Condition and Results of Operations”（2012年2月27日に提出された様式10-K/Aによる訂正報告書（Amendment）No. 1、および2012年3月30日に提出された様式10-K/Aによる訂正報告書（Amendment）No. 2による訂正を含む）、ならびに2012年5月4日に提出された様式8-KによるAIGの臨時報告書の添付書類Exhibit 99.2の“Management’s Discussion and Analysis of Financial Condition and Results of Operations”に記載されているその他の要因。AIGは、たとえ新たな情報、将来の事象またはその他の事由が生じても、書面または口頭を問わず、その見解、目標、予測およびその他の記述を更新または変更する義務を負わず、またそのような義務を明確に否認する。

AIGグループは世界の保険業界のリーダーであり、130以上の国で顧客にサービスを提供している。AIGグループ各社は、世界最大級のネットワークを通して個人・法人のお客様に損害保険商品・サービスを提供している。さらに、AIGグループ各社は、米国における生命保険事業およびリタイアメント・サービスの主要な事業者である。AIGの普通株式はニューヨークおよび東京の各証券取引所に上場されている。